

第63回学習会を、平成27年11月20日(金)19:00~20:00 福翔高校にて行いましたので、報告いたします。

第63回の内容

講師 重枝一郎先生

地域や保護者に対しての講演会

- 1 子どもたちが育つ姿を見て、喜び合える関係をつくりたい
- 2 人間関係向上プログラム
- 3 異質をつなぐ力につなげていく
- 4 もし、子どもが(演習)



地域や保護者に対しての講演会

1 テーマについて

『子どもたちが育つ姿を見て、喜び合える関係をつくりたい』このようなテーマで、参加者の関係性を高める演習を取り入れる。

関係性を向上させると、どんな気持ちになるかを実感させ、そのような取組が、「学力向上」「いじめ防止対策」等につながることをイメージさせる。

2 人間関係向上プログラム 「ぐるぐる自己紹介(自己開示S G E)」

グループ内で、1項目ずつぐるぐる順番に回しながら自己紹介していきます。制限時間内に、グループ全体でどこまで回していけるか！テンポよく回してくださいね。答えたくない質問には「パス」あります。

- (1) 名前 (重枝一郎です！)
- (2) お子さんの年齢と性別をよろしければ・・・
- (3) 夫(妻)または身近な大人の良いところをひとつ
- (4) 夫(妻)または身近な大人にバカヤロー！と言いたいことをひとつ
- (5) 最近楽しかったことをひとつ
- (6) 子どもの成長で気になっていることをひとつ
- (7) とてもとても関心のあることをひとつ
- (8) 初恋の話(あっ、手短かにお願いします)
- (8) にたどり着くか着かないくらいで打ち切る。(アイスブレイク程度)

3 異質をつなぐ力

- ・ 誰と喜び合える関係？ 異質(教師と親、小学校と中学校、家庭と家庭など) 異質なものの同士の境界に新しい教育を開く活力の源がある。つなぐためには、心理的な壁を越えて近づかなければならない。
- ・ 縦の関係(親、先生)、横の関係(友だち)があるから人は成長する。ななめの関係(自由で個別的な関係・これが地域の人)は人を変える。

4 コミュニケーション座標軸(ワードトーク)

- ・ 意味と感情を統合させる。

5 人間関係向上プログラム 「まちがいさがし（協力GWT）」

- ・ 協力実習をやることで心理的な壁を越える。
- ・ 教科の授業に関連付けた説明をすることで、AL（主体的、協働的）の実践を模擬体験させる。

6 人間関係向上プログラム 「もし、子どもが（コンセンサスGWT）」

- ・ 成長型マインドセットと硬直型マインドセット（努力をほめる空気）
- ・ レジリエンス（「心が寛容な人の中で」「忍耐強くなる」）
この2つに絞って話す。特に2つ目の話では、やはり、関係性の質が高まると思考の質、行動の質が高まりやすく、結果を生み出すことにつながることを話す。つまり「仲良くすると、学力も向上する」ということを説得的に伝える。

7 おわりに

- ・ 学校に注文するとしたら「ブレない指導」（学級崩壊）
- ・ 学校は、継続性、安定性が重要であることを共有
- ・ 喜び合える関係をつくりましょう。

8 その他

「だらしなく、ルールを守らない部活動生徒へ」

ルールを守ること/スポーツにはルールがあってはじめて成り立つ/ルールを守れば何をしてもいいのか？/どういう選手が尊敬されるか？/事の重大性を知る/ルール破りは立場や信頼を失わせる/人の見ていないところでの行動を大事にする/わからなければルール破りをしてよい？/どうしたら一流の選手になれるか？/裏表のある卑しい人間になるな/自分にうそをつくな/誇り高く生きよ/自分との戦い/型を自分に叩き込め/本物の力は型を乗り越えてあらわれる/生活態度や授業態度を自分に叩き込め/だらしなさはエネルギーや個性を失わせる/戦うエネルギーは練習や試合に注げ/どうやって自分に勝つか/遅刻をしない、授業に集中するなどの課題をひとつひとつできるようにする/小さな目標をひとつずつクリアする生き方を自分のものにできれば、一流の人間になれる/自分はできると信じろ/志高くあれ

「母子家庭で、問題行動を繰り返す男子生徒へ」

あなたには、意地がある/頭がよく、大きく伸びる素質がある/期待している/もって生まれた才能を伸ばすのも腐らせるのもあなた次第/大人への入口に立っているあなたに期待を込めて言葉を贈る/男なら、母親を泣かせるな/母親を守るのが男だ/俺の心がわかってたまるかと思うだろ/そうだ、人の心がそう簡単にわかるはずがない/人は見かけで判断するなというのが、それは、多くの人が見かけで判断しているからだ/だから、見かけを大事にしろ/そのうち中身も見かけに似合うようになる/損得をよ～く考えろ/絶対、損はするな/一時の感情に流されたら、損/しかも、負け/どうでもいいやとあきらめたら、大損/しかも、大敗/やせ我慢しても、本物の得を取る人間になれ/自分の人生は自分で決めろ/他人に決めてもらうな/苦しくても、つらくても、意地を通せ/

言葉には力があります。子どもの心に響く言葉やフレーズ、お話をもつために、風土会に参加したり、人と話したり、本を読んだりして、それを自分の言葉やフレーズ、持ちネタにアレンジできるといいですね。そのために、書いてみる、話してみるなど、実際に自分で表現してみてください。

喜び合える関係づくり

地域や保護者を対象にした講演会では、「安全・安心」がテーマになることが多いようです。どのようなテーマの講演にしても、子どもを介して喜び合える関係をつくることができれば、それが基盤になって教育活動が促進されます。教師は、学校と地域をつなぐ存在です。また、講演会の際に、一方的に話をするだけでなく活動を入れると、場が盛り上がります。何をするにしても、1回でうまくいくことはありません。次につながるような関係ができれば、その次、その次とつながっていき、教育活動もやりやすくなります。それは、関係性が深まったからです。そして、関係性を向上させると教育活動の成果も上がります。つまり、学力向上やいじめ防止にもつながるのです。

「関係性を向上させるとどんな気持ちになるか」保護者や地域の方々に実感してもらえるような活動を取り入れることを提案します。

人間関係向上プログラム

人間関係向上プログラムとは、相手の立場を尊重して自らの気持ちや考えを伝えたり、相手の働きかけに適切に反応したりできるなど、子どもの良好な人間関係を構築するための能力の育成を目指して行われる教育プログラムです。

様々な活動がありますが、地域や保護者を対象とするお勤めの活動に「ぐるぐる自己紹介」があります。制限時間内にテンポよく自己紹介をします。答えたく質問には「パス」してもよいことにして、安心感をつくります。目的は、「仲良くなること」「信頼関係をつくること」「相談しやすい関係をつくること」なので、場の雰囲気を見て、タイミングよく打ち切ります。

初対面では、「心理的な壁」があります。しかし、話をするすると「こんな人なのか」と距離が近づきます。心理的な壁を越えるようなコミュニケーションを深めていくのが、「人間関係向上プログラム」です。

教師の専門性として「異質をつなぐ力」を意識する

教師の専門性は、教科を教えることだけではなく、教科を越えた指導力も含まれます。教師と親、小学校と中学校、家庭と家庭などを「異質」と定義すれば、それらの人的資源をつなぐのが教師の専門性だと意識します。例えば、小学校の先生は中学校の先生に対して、もっときちんと授業をしてほしいと思っているとします。中学校の先生は小学校の先生に対して、生徒指導をきびしくしてほしいと思っているとします。それが、フォーマルな関係だと心理的な壁があるままです。しかし、インフォーマルな関係ができるなど心理的な壁を越えると、新たな気づきがあり新しい教育を開くことができます。このように、異質なものの同士の境界に新しい教育を開く活力の源があるのです。

また、子どもにとって縦の関係は親や先生、横の関係は友達です。その関係性があるから、人は成長します。そして、地域の人との関係は、ななめの関係といえます。ななめの関係は、自由で個別的な関係です。その関係性によって、子どもが変わる可能性があります。

例えば、思春期に入った生意気な子どもがいたとします。親や先生の言うことは聞かない、友だちには威張っているような子どもです。その子どもが地域の人から「あいさつをしなさい」と言われて、あいさつをするようになることもあるのです。このように、いろいろな関係性で子どもに関わることができるように「つなぐ」ことができるのが、今からの教師に求められる専門性です。

「もし、子どもが」の演習について

グループで協力して、情報カードを正しく並べるコンセンサス実習です。正しい解答を見つけることよりも、実習をしながら具体的なエピソードが出てくる方が関係性の質が上がります。お互いに遠慮していると、つまり、心理的な壁があると、何時間あっても進みません。ファシリテーター役になる先生は、全体の様子を見ながら、グズグズしているチームには進行のアドバイスが必要です。演習をしながら、子育ての悩みなどのエピソードが聞こえてきたり、共感するような声が聞こえてきたりするのが望ましいのです。感情交流ができると、関係の質が高まります。ファシリテーターはそのようなビジョンをもって進行するとよいでしょう。

また、演習のまとめとしてどんな話をするのかは重要です。その話によって、演習の意義を実感できるからです。

例えば、2つだけ話をするなど、話すことを決めておくブレがありません。

この演習のまとめであれば、以下の2つについてだけ話をする決めておきます。

「高望みをされて 自分を無能だと思う」

「心の寛容な人の中で 忍耐強くなる」

そして、この2つについて関連する話を考えておきます。

「成長型マインドセット」「硬直型マインドセット」の話

「レジリエンス」の話です。

詳しい内容は、風土会から生まれた本「Teacher's Teacher 2」P.136～を参照してください。

風土会では

「Teacher's Teacher 2」
に載っている内容を説明し
ています。

本を読むだけではわから
ないことが、風土会に参加す
るとわかります。

実感を伴った学びになり
ます。



演習「ぐるぐる自己紹介」

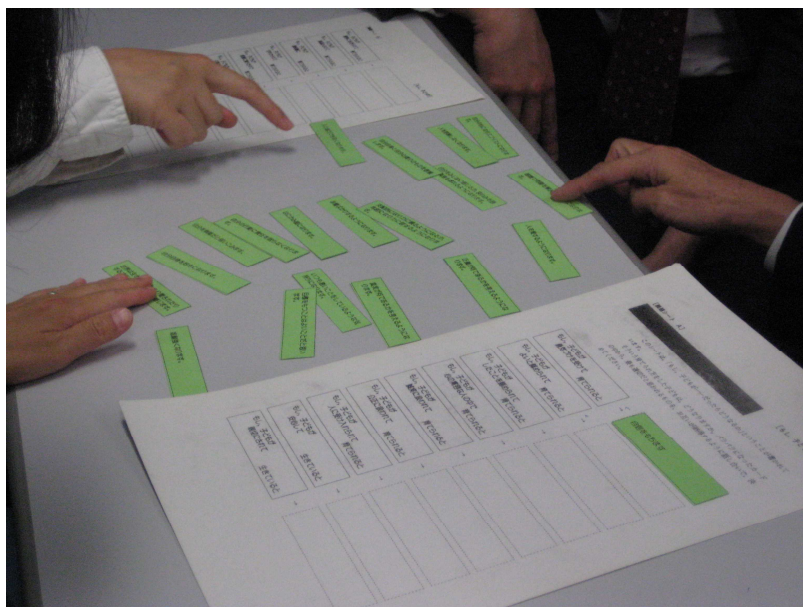


風土会に参加された方々で
「ぐるぐる自己紹介」を
してみました。

一瞬で、なごやかな雰囲気
になりました。

場の空気が変わりました。

演習「もし、子どもが」



「もし、子どもが」については、
「Teacher's Teacher 2」の
P.136~139 に載せています。

実際に演習をすると、理解が深
まります。

保護者会でもできる内容です。

今回のキーワード

異質なものの同士の境界に新しい教育を開く活力の源がある
心理的な壁
成長型マインドセットと硬直型マインドセット
レジリエンス

学習会に参加された先生方の感想

(参加人数 18名)

・印象に残った言葉は

成長型マインドセット(努力をほめる空気)

レジリエンス(忍耐強くなる)

関係性の質を高め、思考の質・行動の質を高められるような職員の関係性づくりにつとめる勇気をもらいました。ありがとうございました。

・教員の専門性は、教科の指導力だけではなく、「人と人とをつなぐ力」「異質をつなぐ力」であることが、心に残りました。やはり、異質であるがゆえに、心理的距離が必ずあるものですが、その「壁を越える」「境界を越える」というところに、新しい教育を開く活力の源があると実感しました。どのようにして、異質をつないでいくのか。これが最も難しく、深く、専門的であり、面白いところだと感じました。その力を身に付けていくために、もっと学んでいきたいと思います。

・今回、初めて、風土会に参加させていただきました。

コミュニケーション座標軸(ワードトーク)を学び、意味と感情を統合させることが大切だということが分かりました。

カードを並び替える活動の中で、早く正解を出すことが重要なのではなく、エピソード等を話し合うことが重要なのだと聞いて、同じグループの人とたくさん話そうと心がけていると、自然と話せて仲良くなれるものだと感じました。

・響いたコトバ

「ななめの関係」「地域の人声」「異質なものの同士の境界に新しい教育を開く活力の源がある」

周囲、仲間、空気感、チーム力……

無関心ではなく、難しく考えず、関係性の中で人は成長する。

・忍耐強さ、レジリエンスは、9%がパーソナリティー

90%が人的環境が影響するという言葉が印象に残りました。

・タイムリーなことに、来週、授業参観と学級懇談会があります。

質問内容を変えて「ぐるぐる自己紹介」をしてみようと思います。

「学級だよりは異質をつなぐ力の1つ」という言葉に、自信をもらいました。

現在、集中人權学習の最中で、指導案づくりと授業実践に自信がもてず、嘘っぽい言葉は見透かされる、借りてきた言葉ではなく、自分で感じた考えた言葉で授業ができるようにしたいと思いました。

重枝先生が、本などから得た知識に、自分の経験を合わせて理論にしていこうというお話が心に残り、自分もできるようになりたいと思いました。

・子どもたちに学び続けてほしいなら、大人も学び続けることが大事であるということが印象に残りました。人間関係向上プログラム「もし、子どもが」で感じたことは、やはり実際に演習を体験しながら心の壁を取り除いて相手とのコミュニケーションをはかるという点で、口だけではなく、まずはやってみることが大切だと感じました。

(説得力のあるコトバをもち、それを伝えることができる先生は魅力的です。風土会に参加される先生方は学び続ける魅力的な先生だと思います。)